

所属	応用情報科学専攻 応用生命情報学講座（バイオモデリング論分野）
役職・氏名	助手・辛島 彰洋 (28)
国際会議名	Society for Neuroscience 35th Annual Meeting（第 35 回北米神経科学学会）
期間	2005 年 11 月 12 日～11 月 16 日（5 日間）
開催場所	アメリカ・ワシントン D.C.（ワシントン・コンベンションセンター）

平成 17 年 11 月 12 日～16 日にアメリカ合衆国のワシントン D.C.で第 35 回北米神経科学学会（Society for Neuroscience 35th Annual Meeting、以下 SFN と略記）が開催された。SFN は、脳・神経生理学を始め、医学、工学、心理学等さまざまな専攻の科学者が世界中から集う学会であり、年に一回、米国で開催されている学会である。発表内容で 10 個のテーマに分かれており、私は、”neural basis of behavior（行動の神経科学的基盤）”というテーマの発表を主として拝聴した。その中でも、”learning and memory（学習と記憶）”、”neural plasticity（神経可塑性）”、”motivation and emotion（動機と感情）”、そして”biological rhythms and sleep（生物学的リズムと睡眠）”の発表では、それぞれの機能を担う分子基盤や神経機構に関して最新の報告があり、多くの研究のアイディアを得ることができた。さらに、「Firing of putative cholinergic neurons in the laterodorsal tegmental nucleus is related to the hippocampal theta wave」と題した私のポスター発表では、記憶獲得にかかわる海馬と呼ばれる部位で観測される周期活動(シータ波)が生成する神経機構を実験的に調べた結果を報告したが、類似した研究に従事される各国の先生方から励ましの言葉やアドバイスを頂戴することができて、大変充実したものになった。